

少年の主張



きれいな公園であるために

若基小学校6年 松永 不比等

きれいな公園がずっと続くこと。これは、みんなが気持ちよく公園を利用するために欠かせないことです。そのためには、一人一人の意識を高め、公園にごみを捨てないようにすることをぼくは提案します。公園がきれいになると、たくさんの人が公園を利用することになり、地域全体が仲良くなるのではないのでしょうか。そして、みんなが笑顔になることで、より良い未来へとつながっていくとぼくは考えています。

小学5年生の秋頃の話です。けやき台の児童公園で友達と野球をして遊んでいると、公園にたくさんのごみが落ちていて気がつきました。誰かごみを公園に捨てているんだと思いました。その時、ぼくは「公園をきれいにしよう。ごみを見つけたら、自分だけでも拾っていいこう」と心に決めました。それから公園で遊ぶときは、必ずごみ袋を持って行くようにしました。

た。公園にはたくさんのごみが落ちていたので、遊びにくたびに袋はばんばんに膨れます。最初は思いつきで始めたごみ拾いでしたが、自分たちが利用する公園がきれいになつていくのを見ると、ごみ拾いがだんだんと楽しくなつていきました。大きく膨らんだごみ袋を自分の家のごみ箱に捨てるときには満足感がありました。ただ一方で、それでもなくならないごみに、ある考えが頭の中に思い浮かびました。

「ごみ箱さえあれば…」と。

そこで、なぜ公園にごみ箱がないのかを知るために、実際に役場に行つて話を聞いてみることにしました。すると、役場の方が、理由を丁寧に説明してくださいました。一つ目は「放火などのいたずらがあったら困る」ということ、二つ目は「公園は公共の場所だから、ごみなどを自分で持って帰ることは当たり前ということ」でした。

その理由には、とても納得しました。確かに公園は公共の場所で自分のごみを自分で持つて帰るのは、当たり前のことです。自分で出したごみは自分で持つて帰る。ぼくでも知っていることです。当たり前前のごみを当たり前にできしてほしいと思うから、ごみ箱を置かないというの納得できます。しかし、現に今、公園にはごみが落ちています。一人一人の意識に頼るだけでは、ごみはなくならないという現実が目の前にあるのです。ぼくは怒りや悲しみというよりも、なぜだろうという疑問でいっぱいになりました。そして、ぼくに何ができるだろうと考えて、小さな一歩かもしれないけれど、ぼくにできることとして、ごみ拾いを続けることにしました。

1か月ほど続けた頃、友達にごみ拾いをしてることを話すと、「じゃあ、ぼくも手伝うよ」と言ってくれました。一緒にごみを拾ってくれる友

達が増えたのです。このようなことが、地域へ、地域から町へと広がっていくといいなと考えて、今もごみ拾いを続けています。

きれいな公園がずっと続いてほしい。今、自分にできることは、一つ一つごみを拾うことです。きれいな公園までには、小さな一歩かも知れませんが、ぼくの一步も、微力ではあるが無力ではないと信じています。それが自分たちできれいな町にしようという基山町になり、誰もが暮らしやすい、より良い未来へつながっていくことを願いながら、ぼくは今日もごみ袋を持つて公園に遊びに行きます。

11月5日(土)に開催された第36回基山町青少年健全育成町民大会で、小・中学生が発表された内容を紹介します。

(広報きやまの表記法に合わせて、原文の一部表記を変更しています。)

世界じゅうの平和

若基小学校6年 田中 百花

世界の人々と仲を深めること。これは、平和な未来をつくるために、とても大切なことです。そのために、私は、まず基山町の人たちとの交流を深めることを提案したいと思います。交流を深めていくことが広がっていくと、世界の平和にもつながっていくと考えるからです。

ところで、皆さんは、基山町にどれだけの方が住んでいるか、ご存じですか。なんと、1万7千人以上。もし、こんなにたくさんの人たちと仲良くなれたら、すてきなことだと思いませんか。

しかし、「そう簡単に仲は深まらない」と思う人もいるでしょう。確かに、私は、基山町に11年も住んでいます。まだ、会ったことのない人がたくさんいます。そこで、基山町の多くの方が交流を深めるために、イベントを活用してはどうでしょうか。私たちの住む、ここ基山町には、たくさんさんのイベントがあります。例えば、ふれあいフェス

タヤキのくに祭り、御神幸祭などです。このイベントの中で、一緒に楽しんだり、協力して活動したりすることで、いろんな人とふれあえて、仲が深まると思います。

実際に私は、今年のきのくに祭りで、友達が連れてきた、私の知らない女の子と遊んだり、話をしたりして、仲良くなれた経験があります。帰る時には、友達が9人も増えていました。その時、普段顔を合わせる人がない人も、こうしたイベントで仲良くなれると感じました。だから、私は基山町の人たちと、さらに仲を深めるためには、積極的にイベントに参加した方がいいと思います。イベントを通して、基山町の人同士が仲良くなれば、基山町から佐賀県へ、佐賀県から日本へ、日本から世界へと、人の輪が広がり、みんなが仲良くなって、いずれは、世界の平和につながると思います。

それでも、「仲が深まることと平和とは、関係がないので

は」と思う人もいるかもしれませんが。平和ではないということは、つまり、誰かと争っている状態です。私にとつては、けんかをしている状態も平和ではないことだといえます。けんかは、相手をよく知らないことで引き起こされる

ことが多いのではないのでしょうか。だからこそ、お互いに一緒に話をして、一緒に活動をして、相手のことや気持ちをよく知れば、けんかや争いは起きず、平和が続くのではないのでしょうか。このようなことから、仲が深まることと平和とはつながっている、と私は考えています。

今年のふれあいフェスタに、私は、若基小学校の運営委員会の一員として参加し、あいさつ運動の紹介と募金の呼び掛けをします。そこで、中学生や中学校の先生、地域の方々などと関わる事ができると思います。一緒に協力することで、仲を深め、前まで知らなかった人ともつながることができ、私の輪が、ま

た一つ、広がります。

このように、世界じゅうが平和になるためには、イベントなどを活用しながら、身近な人たちと仲を深めていくことが大切だと私は考えています。



地球温暖化の話

基山中学校2年 牛島大貴

地球温暖化。文字にすると

たったこれだけです。皆さんが思っているよりもっと深刻な問題です。ずいぶん前からいわれていることでもあ

今から考えていきましよう。

まず、皆さんは、今地球は何歳なのか知っていますか。地球は46億歳くらいだといわ

確かに、今の私たちは、あと

10億年後なんて生きていません。だからといって、今の地球の状態を無視するわけには

う回数や量が増える。それが

どんどん地球温暖化につながっている。僕はそんな気がします。例えるなら、地球は病人で、人間はウイルスのような

改善できていないのが現状だと思います。地球温暖化の主な原因は、物を燃やしたときに出る二酸化炭素です。二酸化炭素の特徴は、温室効果ガスの中でも日常で排出される量が多いということです。僕たちの吐く息にも含まれている、そのくらい発生している

ものです。便利な生活を送るためには仕方ないのですが、僕たちは「仕方ない」の範囲を超えているのではないのでしょうか。地球温暖化の被害といわれても、体験したことがないから

「節電」だと思います。電気の使用量が減れば、二酸化炭素の排出量も減るし、電気代も安くなって、いいことがたくさんあります。皆さん、「明らかにつけっぱなしだったな」なんてことはありませんか。

このような行動は、世界中で行われている地球温暖化の進行を止めるための活動に比べると、ちっぽけでささいなことです。でも、これは僕たちが身近にできることであり、明日からでもすぐにできることです。僕たちの住む地球は、これから僕たちの子孫が生活をしていく場です。目の先のことだけでなく、遠い未来の地球についても意識し、行動する。それが一番大切なことではないかと僕は思います。